

みやざきツーリズム協議会会員へ「みどりの食料システム戦略」を周知

宮崎県拠点

- 「宮崎県農泊交流研修会」に参加し、宮崎県拠点の宮崎総括農政業務管理官から「みどりの食料システム戦略」について紹介。
- 参加者は、農泊と有機農業の連携について関心があり、「みどりの食料システム戦略」を効果的に周知。

宮崎県農泊交流研修会の概要

- 日時 令和4年12月5日(月) 13:00 ~ 17:30
場所 綾わくわくファーム(綾町)
出席者 ○ みやざきツーリズム協議会会長 鬼川 直也他同協議会会員29名
○ (株)地域振興研究所代表取締役 須川 一幸
○ (有)松井農園代表 松井 道生
○ オーガニックファーム綾代表 北野 将秀
○ 宮崎県中山間農業振興室主査 古川 智久
○ 九州農政局宮崎県拠点

【主な発言】

- 郷土愛をきっかけに、綾町の前々町長の時に「自然生態系農業」に取り組み始めた。今では当たり前になった綾町独自の有機農業認証制度(金・銀・銅にランク分け)は、消費者との信頼関係を構築するために始めたこと。
- 綾町に移住したきっかけは、イギリスに滞在したときに悠々自適な田舎暮らしを体験し、終の棲家として、薪ストーブライフや自給自足的な生活が綾町でできると思ったから。子供たちが自然の中で農作業を行ったり、ニホンミツバチの飼育にも取り組んでいる。
- これまでは、有機農業栽培の野菜は売れる所もなく、虫食いの野菜は農協でも評価されない状況だった。一方、平成16年に、綾町が有機JAS認証機関を取得し、松井農園でも有機JAS認証を取得した。しかし、当時は、有機JAS認証と綾町の「金・銀・銅」の認証制度と差別化ができず、有機JASが評価されない上に、認証の更新に大変な労力を要した。それでも頑張り続けた結果、胸を張って有機JASの取得を言えるようになった。



参加者へ説明する宮崎総括



活発に交流する会員